

上期の実績と今後の取り組み

2009年10月30日

西日本旅客鉄道株式会社



1. 2010年3月期上期実績(概要)

連結業績実績

| | 2009年3月期 上期実績 | 2010年3月期 上期実績 | 対前年比 |
|-------|------------------|------------------|---------------|
| 営業収益 | 6,349億円 | 5,910億円 | ▲439億円(93.1%) |
| 営業費用 | 5,620億円 | 5,471億円 | ▲149億円(97.3%) |
| 営業利益 | 728億円 | 438億円 | ▲289億円(60.2%) |
| 経常利益 | 570億円 | 275億円 | ▲294億円(48.4%) |
| 当期純利益 | 333億円 | 171億円 | ▲162億円(51.3%) |

営業収益は外部顧客に対する売上高

事業セグメント別実績

| | | 2009年3月期 上期実績 | 2010年3月期 上期実績 | 対前年比 | |
|-------|------|------------------|------------------|---------------|--------------------|
| 運輸業 | 営業収益 | 4,332億円 | 4,008億円 | ▲324億円(92.5%) | 運輸収入が対前年▲318億円の大幅減 |
| | 営業利益 | 586億円 | 318億円 | ▲267億(54.4%) | |
| 流通業 | 営業収益 | 1,078億円 | 1,006億円 | ▲72億円(93.3%) | 物販飲食・百貨店とも減収 |
| | 営業利益 | 30億円 | 14億円 | ▲15億円(49.0%) | |
| 不動産業 | 営業収益 | 340億円 | 365億円 | +25億円(107.4%) | 分譲収入が増加 |
| | 営業利益 | 116億円 | 117億円 | +0億円(100.5%) | |
| その他事業 | 営業収益 | 598億円 | 530億円 | ▲68億円(88.6%) | ホテル業・旅行業などが減収 |
| | 営業利益 | ▲10億円 | ▲14億円 | ▲4億円(-) | |

営業収益は外部顧客に対する売上高

2. 2010年3月期業績見通し

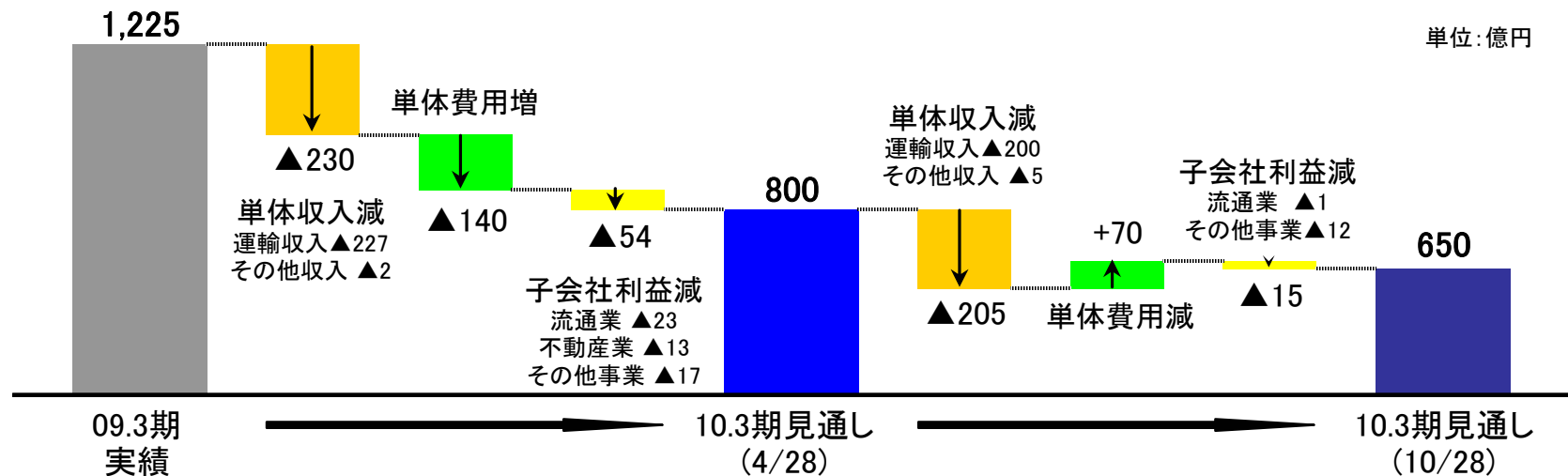
連結業績見通し

| | 2009年3月期 実績 | 2010年3月期 見通し(4/28) | 2010年3月期※ 見通し(10/28) | 対前年比 | 対期首(4/28)見通し比 |
|-------|----------------|-----------------------|-------------------------|---------------|---------------|
| 営業収益 | 12,753億円 | 12,430億円 | 12,150億円 | ▲603億円(95.3%) | ▲280億円(97.7%) |
| 営業費用 | 11,527億円 | 11,630億円 | 11,500億円 | ▲27億円(99.8%) | ▲130億円(98.9%) |
| 営業利益 | 1,225億円 | 800億円 | 650億円 | ▲575億円(53.1%) | ▲150億円(81.2%) |
| 経常利益 | 948億円 | 510億円 | 370億円 | ▲578億円(39.0%) | ▲140億円(72.5%) |
| 当期純利益 | 545億円 | 290億円 | 200億円 | ▲345億円(36.7%) | ▲90億円(69.0%) |

営業収益は外部顧客に対する売上高

※2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更していません

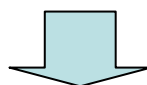
連結営業利益の見通し



3. 経営の現状認識と今後の経営の基本方針

JR西日本グループ中期経営計画2008－2012(2008年5月策定)

- 策定の背景
- 中長期的に目指す姿
- 経営目標
- 安心と信頼のブランドの確立
- 持続的発展に向けた事業戦略の推進
- 長期的視点からの経営構想の構築
- 企業価値向上に向けた財務戦略・資本政策
- 経営指標



- 中期経営計画で掲げた目標や取り組みは変わらない。「創意工夫」と「チームワーク」の強化を図り、全力でチャレンジしていく。
- かつてない規模の景気後退に加え、今後の景気動向や政策変更の影響を現時点で合理的に見積もることは困難であり、経営指標の見通しの変更は行っていない。
- 「経営改善実施本部」のもと、事業全般にわたる業務の仕組みの見直しを通じ、安全性の維持・向上を図りながら経営体質の強化を図る。

4. 運輸収入の主な増減要因

| | 2010年3月期上期実績 | | | | 下期見通し | 2010年3月期通期見通し ^{※2} | | |
|------------|--------------|-------------------|---|-------------------|---------|-----------------------------|--------|---------------|
| | 運輸収入 | 対前年比 | 主な要因 | | 対前年比 | 運輸収入 | 対前年比 | 対期首(4/28)見通し比 |
| 新幹線 | 1,572億円 | ▲163億円 (90.6%) | 基礎トレンド(91.4%) ▲149億円 特殊要因 ▲14億円 新型インフルエンザ ▲23億円 高速道路料金値下げ ▲22億円 曜日配列(9月5連休) +12億円 ダイヤ改正 +8億円 など | ▲44億円 (97.3%) | 3,183億円 | ▲208億円 (93.9%) | ▲103億円 | |
| 京阪神 | 1,442億円 | ▲90億円 (94.1%) | 基礎トレンド(94.9%) ▲77億円 特殊要因 ▲13億円 新型インフルエンザ ▲13億円 曜日配列(9月5連休) +4億円 など | ▲46億円 (96.8%) | 2,877億円 | ▲137億円 (95.4%) | ▲71億円 | |
| その他 在来線 | 611億円 | ▲61億円 (90.9%) | 基礎トレンド(91.0%) ▲60億円 特殊要因 ▲1億円 新型インフルエンザ ▲3億円 高速道路料金値下げ ▲2億円 曜日配列(9月5連休) +2億円 など | ▲15億円 (97.6%) | 1,248億円 | ▲77億円 (94.2%) | ▲25億円 | |
| 船舶・荷物 | 0億円 | ▲2億円 | 船舶分社化 ^{※1} | ▲2億円 | 0億円 | ▲4億円 | - | |
| 合計 | 3,626億円 | ▲318億円 (91.9%) | | ▲109億円 (97.1%) | 7,310億円 | ▲427億円 (94.5%) | ▲200億円 | |

※1 JR西日本の船舶事業は、2009年4月に子会社「JR西日本宮島フェリー」に譲渡されました

※2 2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更していません

5. 収入確保の取り組み

新幹線のビジネス需要促進

EX-ICサービス(新幹線の会員制チケットレスサービス)

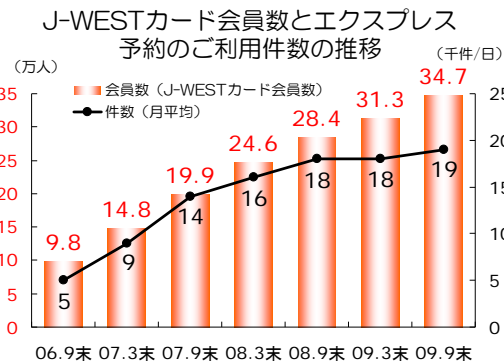
- ・8月29日より東海道・山陽新幹線全線でサービス開始
- ・併せて、「EX-IC早特」を設定。列車・区間・席数限定の早期購入割引(乗車3日前までの予約で割引幅を拡大)

【参考】主要区間における価格の比較(片道)

| 区間 | 新大阪-博多 | 岡山-東京 | 広島-東京 | 博多-名古屋 |
|------------|---------|---------|---------|---------|
| 所定運賃・料金 | 14,890円 | 16,860円 | 18,550円 | 18,030円 |
| EX予約/EX-IC | 12,880円 | 15,570円 | 17,170円 | 16,200円 |
| EX-IC早特 | 11,450円 | 14,000円 | 15,500円 | 14,000円 |

J-WESTプレミア・プログラム

- ・J-WESTカード(エクスプレス)会員の1年間の山陽新幹線利用実績を計算し、利用の多い会員に対し、翌1年間、優遇特典(ボーナスポイント、年会費ポイントバック)を提供するサービス
- ・8月1日よりサービス開始



JR東海との連携による「エクスプレス予約コーポレートサービス」を開始

観光需要の喚起

西日本パス

- ・JR西日本、JR四国、JR九州全線の新幹線・特急や智頭急行線が乗り放題で普通車用2日間18,000円(8/3までは12,000円でJR九州の一部区間や智頭急行線は利用不可)など※1
- ・当初は5~6月の期間限定だったが、12月まで発売延長(お盆期間、秋の5連休期間、11/20-23は利用不可)
- ・9月末までに28万枚以上を発売

このほか、

- ・「こだま指定席往復きっぷ」大阪⇄岡山41%割引など(3-12月)
- ・「雷鳥指定席往復きっぷ」大阪⇄金沢32%割引など(7-12月)なども発売中(いずれも席数限定で割引料金を設定)※2

観光キャンペーン

- ・熊野古道、石見、倉敷で地元と一体で観光キャンペーンを実施⇒ガイド付ハイキング、観光施設の特別公開、最寄駅からのアクセス整備等と合わせて展開
- ・JR九州の熊本キャンペーンとの連携

私鉄との連携

- ・京阪電車、南海電鉄と当社の3社が連携し、アーバンネットワークエリアにおいて列車による近郊行楽需要を喚起

※1 2名以上同一行程、利用開始7日前まで発売等の制限あり

※2 2名以上同一行程、利用開始前日まで発売等の制限あり

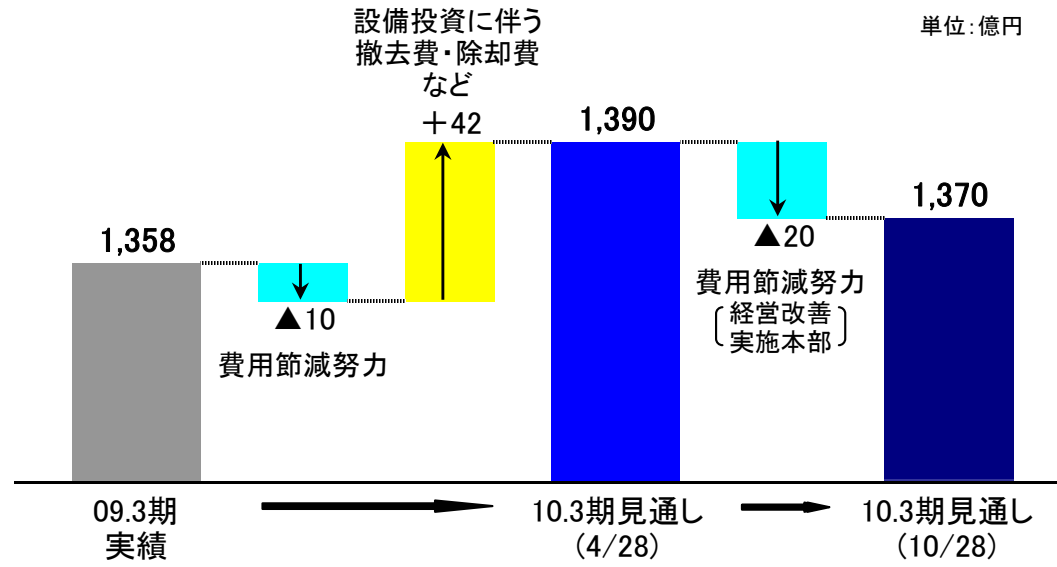
6. 単体営業費用の主な増減要因

| 科目 | 2010年3月期上期実績 | | 2010年3月期通期見通し [※] | | |
|--------|------------------|--|----------------------------|--|---------------|
| | 対前年比 | 主な要因(単位:億円) | 対前年比 | 主な要因(単位:億円) | 対期首(4/28)見通し比 |
| 人件費 | ▲8億円 (99.4%) | ・賞与の減▲10 ・社員数の増など | +3億円 (100.1%) | ・賞与の減▲10 ・社員数の増など | ▲5億円 |
| 動力費 | ▲13億円 (92.7%) | ・電気料金・軽油価格の下落 | ▲37億円 (90.2%) | ・電気料金・軽油価格の下落 | ▲5億円 |
| 修繕費 | ▲13億円 (97.6%) | ・施策的経費の減▲11 | +11億円 (100.8%) | ・設備投資関連撤去費の増+38 ・除却費の増+2 ・施策的経費の減▲32 | ▲20億円 |
| 業務費 | ▲19億円 (97.5%) | ・システム関連の経費の増+5 ・会社間清算の増+5 ・発売手数料の減▲11 ・広告宣伝費の減▲14 | +31億円 (102.0%) | ・システム関連の経費の増+26 ・会社間清算の増+9 ・発売手数料の減▲8 ・電気料金・軽油価格の下落▲9 | ▲35億円 |
| 租税公課 | ▲8億円 (95.8%) | ・固定資産税前納の減など | +8億円 (103.0%) | ・固定資産税の増など | ▲5億円 |
| 線路使用料等 | ▲1億円 (99.2%) | — | +1億円 (100.6%) | — | — |
| 減価償却費 | +8億円 (101.5%) | ・設備投資の増 | +50億円 (104.4%) | ・設備投資の増 | — |
| 営業費用計 | ▲55億円 (98.5%) | — | +70億円 (100.9%) | — | ▲70億円 |

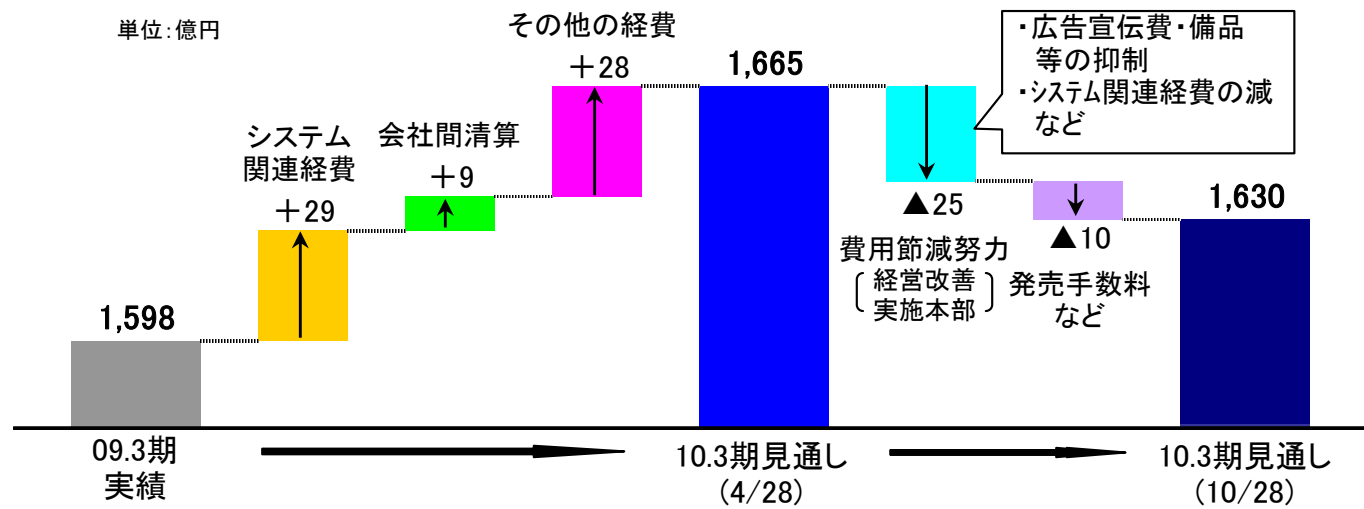
※ 2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更していません

7. 修繕費・業務費の見通し

修繕費の見通し



業務費の見通し



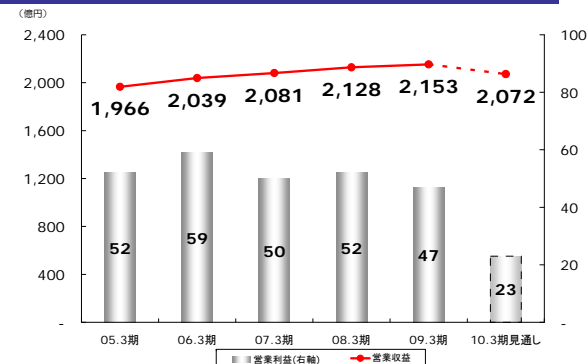
8. 鉄道以外の事業の状況①

流通業

| | 09年3月期 上期実績 | 10年3月期 上期実績 | 対前年比 | 主な要因 | 09年3月期 実績 | 10年3月期 見通し* | 対前年比 |
|----------|----------------|----------------|------------------|--|--------------|----------------|------------------|
| 営業 収益 | 1,078億円 | 1,006億円 | ▲72億円 (93.3%) | 物販・飲食 ▲48億円 景気・新型インフルの影響による売上減 百貨店 ▲30億円 服飾等売上減 | 2,153億円 | 2,072億円 | ▲81億円 (96.2%) |
| 営業 利益 | 30億円 | 14億円 | ▲15億円 (49.0%) | 物販・飲食 ▲11億円 百貨店 ▲5億円 | 47億円 | 23億円 | ▲24億円 (48.2%) |

営業収益は外部顧客に対する売上高

※2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更していません

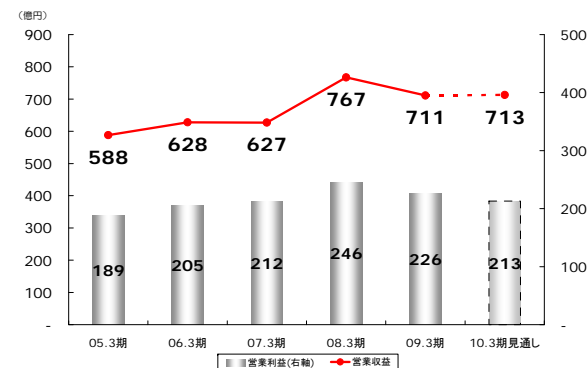


不動産業

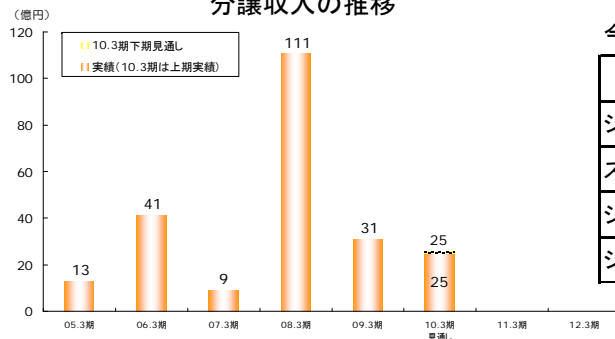
| | 09年3月期 上期実績 | 10年3月期 上期実績 | 対前年比 | 主な要因 | 09年3月期 実績 | 10年3月期 見通し* | 対前年比 |
|----------|----------------|----------------|-------------------|---|--------------|----------------|------------------|
| 営業 収益 | 340億円 | 365億円 | +25億円 (107.4%) | 不動産販売・賃貸 +27億円 分譲収入の増 ショッピングセンター +0億円 景気・新型インフルの影響による賃料収入の減 新規開業・リニューアル効果による増 | 711億円 | 713億円 | +1億円 (100.2%) |
| 営業 利益 | 116億円 | 117億円 | +0億円 (100.5%) | 不動産販売・賃貸 +0億円 ショッピングセンター ▲0億円 | 226億円 | 213億円 | ▲13億円 (94.2%) |

営業収益は外部顧客に対する売上高

※2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更していません



分譲収入の推移



今期および来期以降の分譲物件

| マンション名 | 引渡時期 | 総戸数 |
|---------------|--------------|-----|
| ジェイグラン甲子園口天道町 | 2009年7月(引渡済) | 90 |
| ステイツグラン夙川 | 2010年6月(予定) | 35 |
| ジェイグラン須磨海浜公園 | 2011年3月(予定) | 184 |
| ジェイグラン阿倍野松崎町 | 2011年7月(予定) | 100 |



ジェイグラン甲子園口天道町

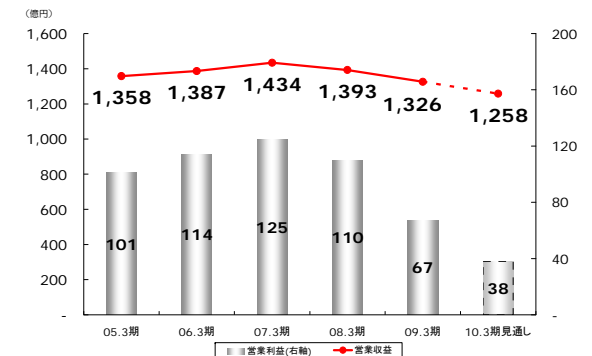
9. 鉄道以外の事業の状況②

その他事業

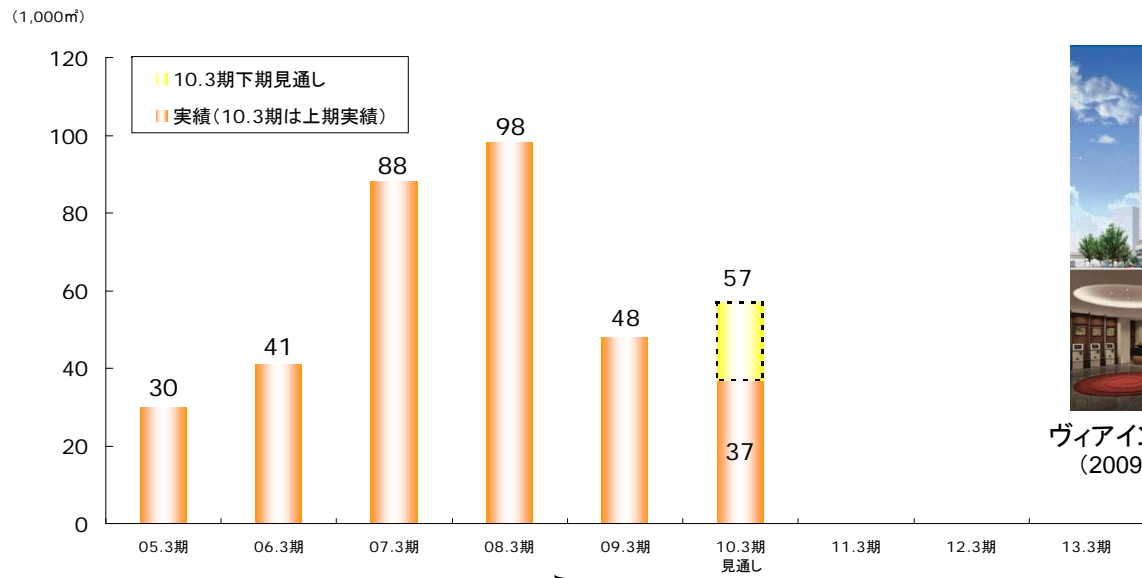
| | 09年3月期 上期実績 | 10年3月期 上期実績 | 対前年比 | 主な要因 | 09年3月期 実績 | 10年3月期 見通し* | 対前年比 |
|----------|----------------|----------------|------------------|---|--------------|----------------|------------------|
| 営業 収益 | 598億円 | 530億円 | ▲68億円 (88.6%) | ホテル業 ▲10億円 景気・新型インフルの影響による宿泊・宴会の減 旅行業 ▲42億円 海外旅行・国内旅行とも減 | 1,326億円 | 1,258億円 | ▲68億円 (94.9%) |
| 営業 利益 | ▲10億円 | ▲14億円 | ▲4億円 (-) | ホテル業 ▲1億円 旅行業 ▲10億円 | 67億円 | 38億円 | ▲29億円 (56.5%) |

営業収益は外部顧客に対する売上高

※2010年3月期の業績見通しは、7月29日に開示した内容を変更しておりません



駅構内・周辺開発の実績と計画



2010年3月期上期の開発事例



ヴィアイン東京大井町
(2009年7月開業)



JR高槻駅NKビル
(2009年6月開業)



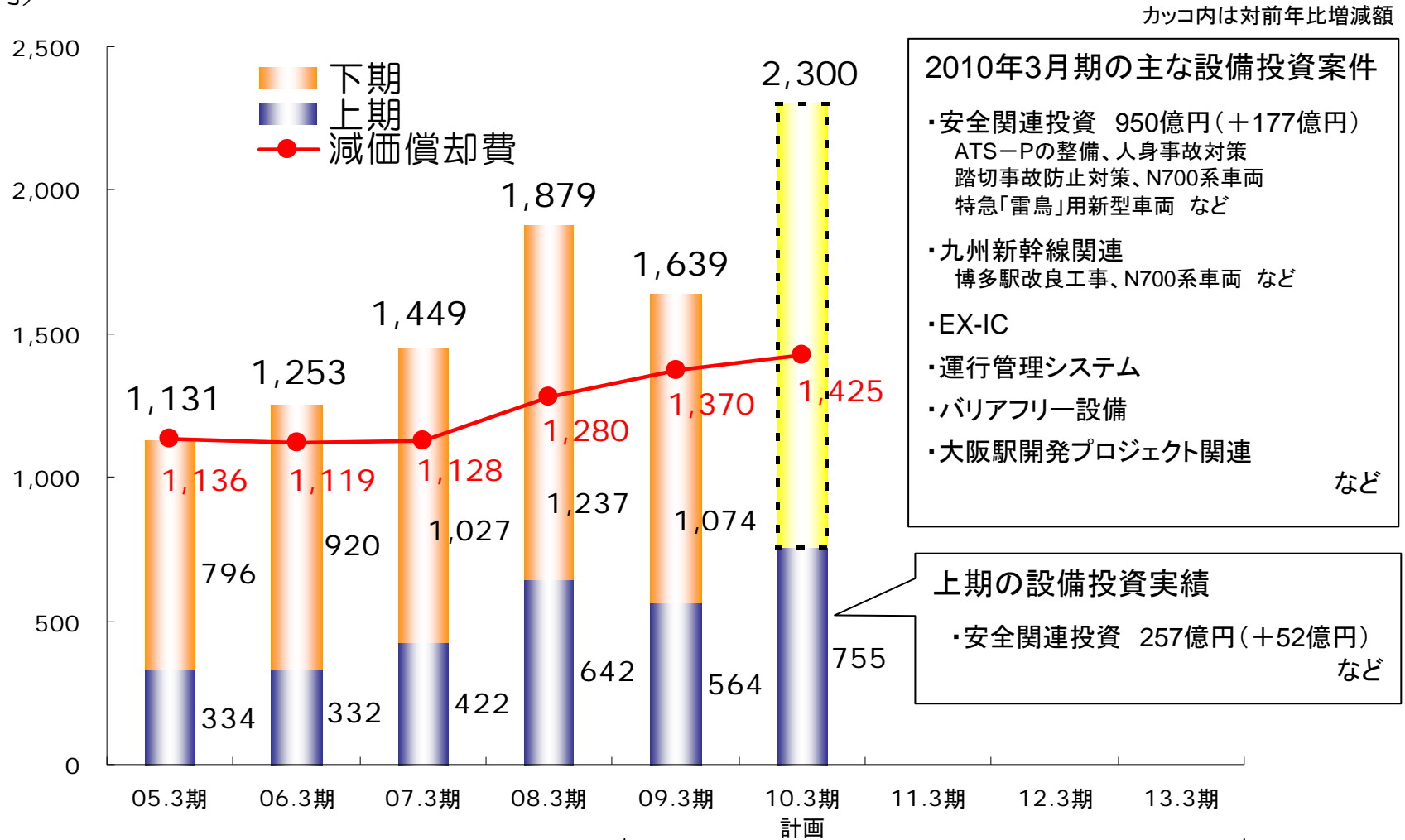
JR尼崎駅北NKビル
(2009年9月開業)

中期経営計画(2008年5月策定)

09年3月期～13年3月期の5年間の合計で、大阪駅開発PTを除き25万平米の開発を計画

10. 設備投資計画(連結)

(億円)

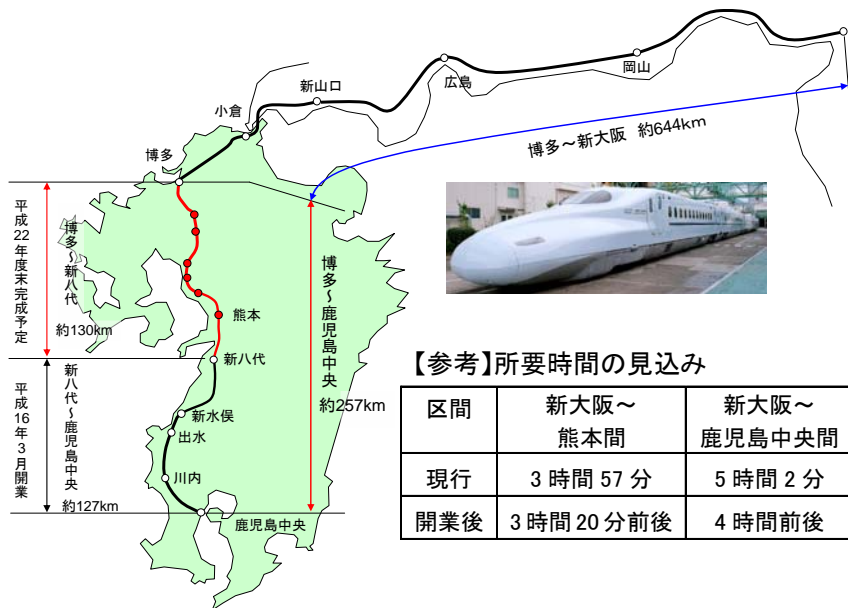


11. 2大プロジェクト

九州新幹線との相互直通運転

サービス開始： 2011年春(九州新幹線博多開業時)

総投資額： 約1,000億円(車両+地上)



【参考】所要時間の見込み

| 区間 | 新大阪～熊本間 | 新大阪～鹿児島中央間 |
|-----|----------|------------|
| 現行 | 3時間57分 | 5時間2分 |
| 開業後 | 3時間20分前後 | 4時間前後 |

【参考】主要区間における鉄道と航空機の利用者数の比較(08.3期)

| 区間 | | 鉄道 | 航空機 | 合計 |
|-----|-----|-----------------|-------------------|----------|
| 京阪神 | 熊本 | 803人/日 (30%) | 1,885人/日 (70%) | 2,688人/日 |
| | 鹿児島 | 364人/日 (9%) | 3,605人/日 (91%) | 3,969人/日 |

出典：平成19年度旅客地域流動調査(国土交通省)

大阪駅開発プロジェクト

完成予定： 2011年春

開発規模： 約24万5,000㎡

- ・新北ビル 約21万㎡
 百貨店(JR大阪三越伊勢丹)： 約9万㎡(売場面積約5万㎡)
 ショッピングセンター： 約4万㎡(店舗面積約2万㎡)
 オフィス等： 約4.5万㎡(賃貸面積約2.1万㎡)
 シネマコンプレックス： 約1万㎡
- ・アクティ大阪増築 + 約3.5万㎡(13.8万㎡→17.3万㎡)
 うち大丸売場面積+約2.4万㎡

総事業費： 約2,100億円

収入想定：

- 不動産業 115～120億円/年(流通業との内部取引を含む)
- 鉄道 45～55億円/年
- 流通業 550億円以上/年(百貨店)



南東側

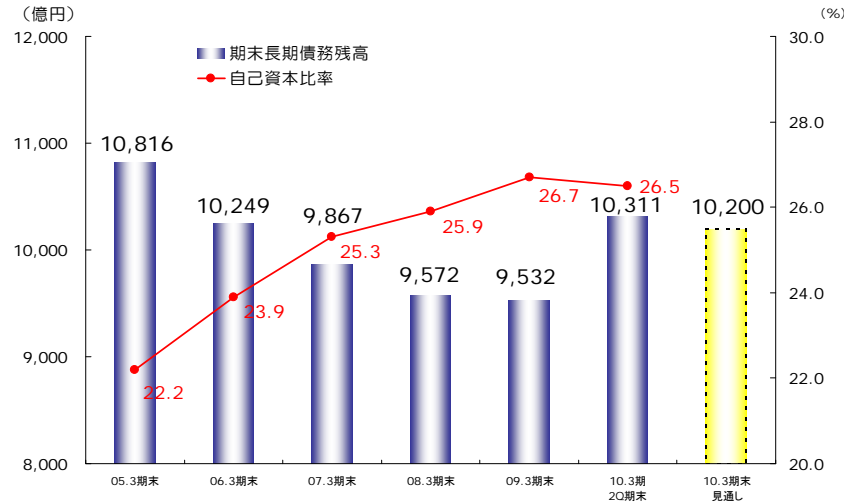


北側

(2009年10月現在)

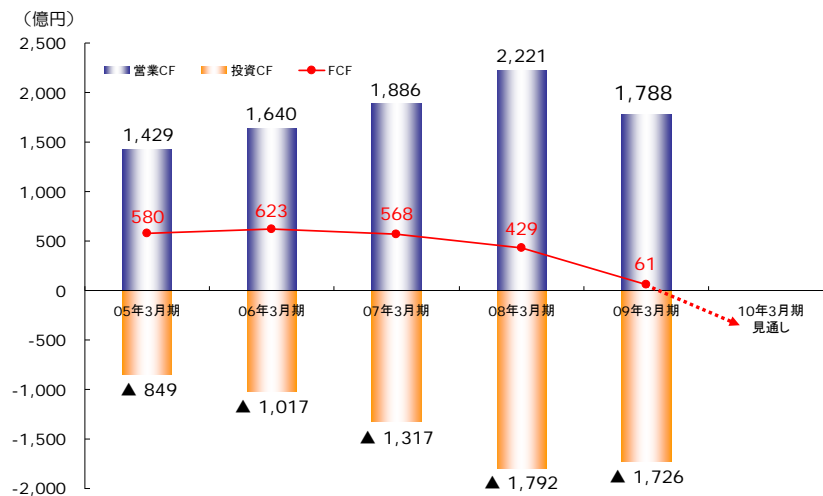
12. 財務・キャッシュフローの見通し

自己資本比率・長期債務残高の推移(連結)



- 2009年9月期末時点の長期債務残高は1兆311億円、自己資本比率は26.5%
- 2010年3月期末の長期債務残高の見通しが10,200億円となる見込みは変わらず
- 高水準の設備投資に伴い、長期債務が増えるものの、自己資本比率は鉄道会社としては高い水準にあると認識

キャッシュフローの見通し(連結)



- 2010年3月期の配当は年間7,000円/株を予定
- 高水準の設備投資により、フリーキャッシュフローは一時的に赤字となる見込みだが、持続的な発展を目指し、安全投資や2大プロジェクトへの投資は計画通り実行していく
- 中期経営計画で掲げた「プロジェクトの成果が実現することを前提に、2013年3月期において連結DOE3%を目指す」方針は不変

見通しに関する注意事項

- この資料は、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。
- 既に知られた若しくはいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- この資料に掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2009年10月30日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2009年10月30日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等の影響については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、この資料の見通しには含まれておりません。